

第三回 家村中佐の兵法講座

平成二十四年四月十五日

勢篇 機に乗じ時に応じて生ずる「軍の本然の勢い」にまかせて士卒を戦わせる

一 凡そ衆を治むること寡を治むるが如くなるは、分数是れなり。

戦力の組織化⇨軍(集団)全体を一個の有機的運動体にする

- ① 指揮・統制……分数(部隊の編成)、形名(命令の伝達手段)
- ② 用兵・作戦……奇正(奇兵と正兵)、虚実(空虚と堅実)

奇正の特質……陰陽、表裏の関係

「正」——有形(目に見える)——相手と同質

「奇」——無形(目に見えない)——相手と異質

奇兵と正兵の三つの側面

- ① 態勢——敵をして勝つべからざる備え(正) ↑↓ 敵の敗形に乗ずる攻撃(奇)
- ② 術策——定石(正面からの攻撃、正攻法) ↑↓ 奇策(側面・背面攻撃、不意討ち、奇襲)
- ③ 形態——正規軍、正規戦(正) ↑↓ 不正規軍、ゲリラ戦(奇)

【闘戦経】第十七章 大軍の運用は進止のみ(奇正なし) (七八頁)

二 戦いは、正を以て合ひ、奇を以て勝つ。……戦は正兵で相闘い、奇兵の働きで勝つ
善く奇を出だす者⇨智謀に富んでいる者……智は窮まりなく、謀は枯渇しない
終わりに復た始まるは、……、死して復た生ずるは……(奇兵の運用)

戦勢は奇正に過ぎざるも、奇正の変は勝てて窮むべからざるなり。

奇兵の運用(時・場所・敵により変化) × 正兵との組み合わせ ⇨ 無限・無数

奇正の還りて相い生ずることは、環の端なきが如し。

- (一例) ①戦況が浮動 ↓ ②戦機を看破 ↓ ③予備隊の投入 (正兵から奇兵)
↓ ④敵の対応策 ↓ ⑤戦況が固定 (奇兵から正兵)

【楠流兵法】「河陽兵庫之記 第四 正実」より

勢いは敵家の動に随ひ、奇は両陣の間に出づ。形固之が為に作らず。只敵に因て転化す。
無為にして能く之に合ひ、無心にして自ら妙をなす。是を以て奇兵の至極とすべし。

三 善く戦う者は、其の勢は險にして其の節は短なり。
勢の仕組み

- ① エネルギーを限界まで蓄積(質 × 量)
 - ② 蓄積したエネルギーを放出(静的エネルギーを動的パワーに転換) Ⅱ節
- 「勢は險」……①と②の量的・空間的な側面(水量が多く、水路が狭いほど激しく流れる)
「節は短」……②の距離的・時間的な側面(短距離ほど命中し、短時間ほど効果が大)
- 紛々紜々、闘い乱れて、而も乱すべからず、渾々沌々、形円くして、而も敗るべからず
Ⅱ軍隊が勢いに乗って(勢は險、節は短で)戦う場合の様相を例示したもの

【闘戦経】第四章 寡兵をもつて大敵を討つ(二六〇頁)

心弦一致の焦点、離弦の刹那……①と②の質的(精神的)な側面

四 治乱は数なり。勇怯は勢なり。彊弱は形なり。

軍の統制・兵士の戦意・軍の戦力は、

- ① 部隊の編成、戦いの勢い、軍の態勢に左右される
- ② 条件次第で変化・流動する(固定的、永続的なものではない)
手に入れたものは常に失われる可能性を持つ

五 これに形すれば敵必ずこれに従い、これを予うれば敵必ずこれを取る。

善く敵を動かす(敵に行動を起こさせる) ↓ 決定的に有利な態勢に持ち込む

- ① 敵にはつきりした形を示す方法 ↓ 敵は対応行動をとる
- ② 敵に有利な餌を与える方法 ↓ 敵は餌を取りに来る

《竹簡本》此を以てこれを動かし、卒を以てこれ待つ

これら(①と②)の方法で敵がある場所に誘い出し、前もって部隊を配置して待ち構える

六 善く戦う者は、これを勢に求めて人に責めず。

Ⅱ 勝利を軍(組織)の勢いに求め、個々人の能力に依存しない

適材を適所に選任配置 Ⅱ各兵種をその性能に応じて使い、戦闘力を最大に發揮

《竹簡本》勢に与(したが)わしむる者 Ⅱ兵卒を勢いに組み入れ、従わせる者

- ① 自軍が有利な態勢下にある Ⅱ將軍(司令官)がもたらす客観的有利さ
- ② 全員が勝利を確信 ↓ 懼れを払拭 Ⅱ兵士の主観的心理(勝てる ↓ 生き残れる)
- ③ 戦意旺盛で一丸となった軍を敵に指向 ↓ 円石を千仞の山に転ずるが如く

【闘戦経】 第十四章 魚の鱗と蟹の足(七二頁)

第四章 勢いで勝つか力で勝つか(二五四頁)

第七章 勝敗は神気の張弛による(二七〇頁)

虚実篇 【闘戦経】 第五章 用兵の神妙は虚無に堕ちざるなり(二八七頁)

一 善く戦う者は、人を致して人に致されず。

人を致す || 相手の行動を自在に操る (主動) | 先手 | 余裕 || 充実に致される || 相手の思いどおりにされる (受動) | 後手 | 焦り || 空虚

(A) 牽制 || 敵をある場所に誘い出す : : 敵の移動・進出を制御

(A-a) 利益による牽制 (プラス面)

(A-b) 損失による牽制 (マイナス面)

(B) 抑留 || 敵をある場所に釘づけにする : : 敵の静止・滞留を制御

— 不利益による抑留 (マイナス面)

牽制・抑留の効果 ①敵戦力の消耗・弱体化 ②自在の進軍 ③自在の攻撃 ④自在の防御

《竹簡本》 敵 佚すれば能くこれを勞し、飽けば能くこれを飢えしむる者は、

其の必ず趨く所に出づればなり。 : : A-b 効果①

二 攻めて必ず取る者は、其の守らざる所を攻むればなり。 || 牽制・抑留の効果③

三 進みて禦ぐべからざる者は、その虚を衝けばなり。

退きて追うべからざる者は、速やかにして及ぶべからざればなり。(戦場)

《竹簡本》 進みて迎うべからざる者は、その虚を衝けばなり。

退きて止むべからざる者は、遠くして及ぶべからざればなり。(戦域)

其の之く所を乖く(そむく) || 敵に疑念を起(おこ)させる ↓ 敵に攻撃を躊躇(ちゆうちゆう)させる

《竹簡本》 其の之く所を膠く(あざむく) || 敵を詐(あや)り欺(あや)す ↓ 敵に判断を誤(あや)らせる